読者コーナー

readers voice

読者の皆さんの広報しょうばらを読んだ感想や、庄原市への思いなどを掲載するコーナーです。7月号で添付した庄原写真はがきでお寄せいただいた声をお届けします。

毎月楽しく読ませていただいています。

はがきのアイデアは素敵です。老いて読むことに感謝です。今後も面白い楽しい記事を楽しみに待っています。（S・K73歳女性）

▼ありがとうございます。今月はいかがでしたでしょうか。

写真はがきはとても良いですね！早速、庄原PRに国営備北丘陵公園のはがきを利用して、友達に送りました。

広報しょうばらも毎回隅まで読んで、自分に必要なことに活用しています。色んな情報を提供していただいてありがとうございます。これからもよろしくお願いします。（ひとみちゃん47歳女性）

▼隅まで読んでいただき、身が引き締まります。

7月広報しょうばらの写真はがきは一石二鳥の発想、うれしくなって、早速友人に出しました。

思い出のいっぱいある「帝釈峡」が、どんなにか友人に喜んでもらえたことと思います。またの機会を楽しみにしています。（大福のみよちゃん79歳女性）

▼紅葉で映える帝釈峡が見られるのも間近ですね。誇れる名勝をどんどんPRしたいですね。

毎月、広報しょうばら楽しみにしています。特に7月は写真はがきのプレゼント心待ちにしていました。とても素敵なカラー写真の〝ふるさと庄原の写真ハガキ〟にとても喜んでいます。早速、遠方の友へ便りしようと思います。自然豊かな庄原を思い出してもらえると思います。

また、しょうばら百景も楽しみの一つですね。色々と楽しい企画、これからも広報しょうばらに期待しています。（松ぽっくり73歳女性）

▼しょうばら百景も先月号で50回を数えました。ぜひ投稿もお待ちしています。

広報しょうばら、いつも楽しみにしております。担当の皆さまのご苦労お察しいたします。

私の母などは庄原のことがよく分かって勉強になると言っています。本当に貴重に思っております。毎月大変だとは思いますが、これからも期待しております。（のりピー61歳女性）

▼広報紙づくりも日々勉強です。皆さんの声が力になります。

広報しょうばらを拝読して、庄原市の積極的な『まちおこしの取り組み』も、色々と学ぶこともできました。

21世紀は、田舎も輝く時代ですが、まだまだ情報発信が少ないと思います。

表紙についていました写真はがきも広島や東京などの友人や知人に送らせていただきました。広報しょうばらもまちおこしの宝物ですね。（自輝64歳男性）

▼現在、庄原市の魅力を多くの方に知ってもらおうと、シティープロモーションの一環として「庄原いちばんPRロゴマーク」を活用したPR活動を進めています。7月に立ち上げた公式フェイスブック「庄原いちばんええね！」などを活用し、本市の魅力発信に努めていきます。

暑中お見舞い申し上げます。いつも広報しょうばらを楽しみにしています。

先日の中国新聞にシティプロモーションの一環として庄原写真はがきを発行する旨を目にし、この度の広報を待ちに待っていました。早速、県外の友や庄原市外の友に暑中お見舞いをかねて、このはがきを送りました。

私自身、改めて庄原の「美」を発見することができました。（フルちゃん59歳女性）

▼7月号では夏と秋を写したはがきでした。年明け1月号には冬と春の風景をお届けする予定ですので、お楽しみに。

広報しょうばら7月号に添付した写真はがき

今回の〝はがき〟企画は、よくはがきを出す私にはありがたいです！

さて、ごみ収集について以前から言える場所があればいいと思っていました。私の住んでいる所は、ゴミ収集日には当番がブルーシートを出したり入れたりしないといけないのです。（防火水槽があるので）そのブルーシートをパッと投げるのでなく、畳んで飛ばされないように石を置いていってくださる人の日があります。その人たちの曜日は、ごみを入れる場所が無いからか、早く来てくださっている気もします。忙しい人たちなのにシートを畳んでくださる行為がうれしくて、この場をお借りしてお礼が言いたく書いた次第です！〝いつもありがとうございます！〟（5匹の猫のお母さん62歳女性）

▼ちょっとした心づかいでシートを畳む方、それに感謝する5匹の猫のお母さん。心が温まります。

高町の三協地区では、毎年6月には「ほたる見会」を地域全体で行っています。

6月になると〝1年のごぶさたでした〟と蛍もカレンダーを見ているかのように、一匹、二匹と飛び出し、中旬には数え切れないほどの乱舞を見ることができます。場所は、ごりん橋の上から一望できます。

今年は終わりましたが、来年はぜひ大勢の方にこの素晴らしい蛍の舞を見に来ていただきたいと思います。（ユーミン65歳女性）

▼ご紹介の場所をはじめ、市内では至る所で蛍の乱舞が見られます。それだけ川がきれいで、多くの自然が残っているからこそ。大事にしていきたい風景です。

この4月から庄原市内へ（広島市より）単身赴任で来ています。この間、備北丘陵公園へ行った際に、園内の農家でのおもてなし（お茶とおつけもの）にホッとしました。古里の田舎のことを思い出しました。庄原の方の親切とやさしさが感じられました。皆さんもぜひ行ってみてください。癒やしの空間です。（庄原応援隊54歳男性）

▼世界的ガーデナーで庄原市ふるさと大使の石原和幸さんが「庄原は世界一の里山の風景」と表現され、人のやさしさに感動されています。ご紹介のスポットでは、そうしたおもてなしや体験に触れることができます。

東城町の山の中に住んでいますと、畑や田んぼは猪や猿に荒らされて、耕作意欲も無くなってしまいます。電柵や金柵・網を張りそれぞれに皆さん対応されています。私どももしっかりお金と労力を注ぎ込んで、なお作物を作り続けているのです。

確かに補助制度もあるようですが、その前に猪や猿に対する良い対処法を、庄原市としての対応はできないのでしょうか。何か考えていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。（K・Y56歳女性）

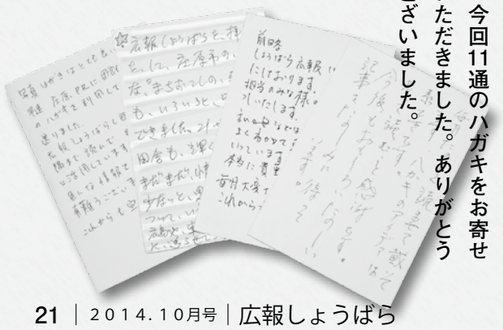
▼有害鳥獣への対策は、庄原市鳥獣被害防止計画に基づき、侵入防止柵や電気柵による防除と、庄原市有害鳥獣捕獲班や狩猟免許を所持した農家自らによる捕獲の両面から取り組んでいます。

野生鳥獣の餌となる収穫放棄された柿などの果樹や、農作物の残りかすの放置など、意図しない餌付け防止の啓発活動も重要であると考えています。

これまで広報しょうばらに「私にもできる獣害対策」を1年間連載し、これをまとめたパンフレットを製作して各ご家庭に配布しています。獣害から守りやすい集落・畑づくりや、餌付けの防止、サルの追い払いなどの啓発にも取り組んでいます。

さらに、専門家の指導に基づき、口和地域にモデルほ場を設け、地域ぐるみで獣害から守れる集落作りの普及啓発にも取り組んでいます。

こうした地域ぐるみの取り組みと、現在行っている捕獲と防除の施策を組み合わせて、鳥獣被害対策を行っていきたいと考えています。（6ページにも有害鳥獣対策に関する記述をしています。）



今回11通のハガキをお寄せいただきました。ありがとうございました。